



高川を初めて見たのは、高校野球の春季大会でした。テンポよく投げ込む姿に、原井コーチと「身体が出来てきたらきっと面白い存在になるだろう」と話をして声を掛けたのを思い出します。

1年目の春のOP戦では、大阪ガス、パナソニック、NTT西日本とワンポイントで出ては打たれ、持ち味の制球力も定まらず、散々たる結果が続きましたが、夏場を越えた頃から徐々に落ち着きを取り戻し、第39回全日本クラブ選手権大会では、1回を投げ特大ホームランを喰らうも、三振を奪うなど調子をあげてきましたね。

その後の、高砂大会の決勝では三宅悠投手の後を受け、胴上げ投手にもなり、奈良県知事杯では最優秀投手賞を受賞するなど、球友会のエースに向けて順調に進んでいるように見えたが、肘の手術を行いその後は一進一退の状態が続きましたね。

矢田コーチからは、「故障中はランニングメニューしかこなせないと分かっているからか、絶対に復活してやるんだという気持ちなのか、手を抜かず、必死にもがいて喰らいついて来る」と「**負けず嫌いで頑張り屋**」の姿には感動を覚えたものでした。

違う一面では、よく投手陣から「口が軽いといじられてます」、びわこ杯では、某コーチと繁華街に消えていく姿に、「**爽やかな青年**」のイメージが崩壊し、今年のびわこ杯が台風で中止になったことに、一番落胆していたと聞きました。

これから、新しい第2の人生に進みますが、持ち前の「**負けず嫌いで頑張り屋**」で頑張ってください。



「頑張り屋」

高川進選手

(平成26年入部)